
夢のスーパー戦隊VSシリーズ

ライダー×戦隊

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夢のスーパー戦隊VSシリーズ

【Nコード】

N7490V

【作者名】

ライダー×戦隊

【あらすじ】

21世紀の戦隊と20世紀の戦隊が夢のコラボ！
ただし、組み合わせは作者の独断で決めています。

一部組み合わせを変え、それに伴ってタグも変更しました。

忍風戦隊ハリケンジャーVSカクレンジャー／妖怪現る！（前書き）

まずはハリケン×カクレンの忍者タッグから……

ではどうぞ！

忍風戦隊ハリケンジャーVSカクレンジャー／妖怪現る！

サーガインを倒して数日、ジャカンジャも動きを潜めているのか平和な昼下がり。

今日の鷹介は『野々ナナ』こと七海のガードマンとして派遣されていた。

七海「すごい偶然だよね」

鷹介「ま、万が一ジャカンジャが現れたら楽だよな……………」
と、その時おぼろさんから通信が入る。

おぼろ『皆！多分ジャカンジャや！！』

七海「多分…………ってどういうこと？」

おぼろ『今までのジャカンジャにはいないタイプなんや…………せやけど、町を襲ってるみたいやし、急行してくれ！』

鷹介「わかった！！」

二人は楽屋を飛び出した。

町中では女性がピンクの怪物に捕まり、長い舌で今にも舐めらそうになっていた。

七海「なにあいつ！？」

鷹介「分かんねえ…………けど、とにかくあの人を助けるぞ！！」

七海「うん！」

鷹介はピンクの怪物、七海は女性に走りよる。

鷹介「はあ！」

????「うおう!？」

鷹介の飛び蹴りでピンクの怪物が怯んだ隙に、七海が女性を助けた。
す。

七海「早く逃げて！」

女性「ありがとうございます！」

女性が一目散に逃げてしまい、ピンクの怪物が怒りだす。

???「ああもう！せっかく捕まえたのに……ってワオー!!」

しかし、七海を見た瞬間にピンクの怪物の態度が一変し、

???「こつちの方がイケてる！じゃ、この娘を……！」

ピンク色の布が七海に襲い掛かるが、

一鍬「七海！」

駆け付けた一鍬がギリギリで七海を抱き抱えて回避する。

さらに一甲と吼太も走ってくる。

一甲「遅くなった」

吼太「さあ、行こうぜ！」

鷹介「ああ！」

鷹介／七海／吼太「忍風！シノビチェンジ!!」「」

一甲／一鍬「迅雷！シノビチェンジ!!」「」

五人はそれぞれのシノビスーツに身を包む。

それを見て

???「お前らも忍者かあ!？」

カブトライジャー「お前ら『も』だと？」

ハリケンイエロー「あいつシュリケンジャーとでも闘ったのかな？」

ハリケンレッド「……それよりこいつ、本当にジャカンジャか？」

ハリケンブルー「それ、どういう……」

???「ジャカンジャ？そんなの知らないよ！僕ちゃんは妖怪オン

ブオバケ!!」

クワガライジャー「オンブオバケ？」

オンブオバケ「そう！こんな事もできるぞ!!?」

オンブオバケはそのまま幽体化してハリケンブルーに乗り移る。

ハリケンブルー「くっ……か、身体が……重い……どうなってるの

……!？」

ハリケンブルーは組み敷かれるように地面に這いつくばった。

クワガライジャー「七海!？」

オンブオバケ「ああ……すごくピチピチだあ……気持ちいい……」
ハリケンブルーの背中にオンブオバケの顔が現れ、変態っぷりを全開にしてニヤニヤと笑う。

ハリケンレッド「ちくしょう……」

ハリケンブルーに憑依しているため、迂闊に攻撃できない。

大ピンチと思ったその時、

???「オンブオバケちゃん」

唐突に声がし、その方向を見ると美しいボディラインの美人がオンブオバケを誘うようにウィンクしている。

オンブオバケ「うっほっ」

オンブオバケは即座にハリケンブルーから離れて美人に向かう。
と、

???「……やっぱり引つ掛かりやがったか！」

突如美人から男の声を発し、襲い掛かるオンブオバケに見事な一本背負いを叩きこんだ。

オンブオバケ「な、な、な……!？」

オンブオバケだけでなく、ハリケンジャーも驚きを隠せない。

ハリケンレッド「な、何なんだよあんな!？」

???「ふっ……」

ぱつと変装を解くと、黒装束の忍びがそこに立っていた。

ハリケナイエロー「えっ、忍者!？」

カブトライジャー「だが迅雷流でも疾風流でもない……何者だ？」

ハリケンジャー達は疑問を感じるが、忍者はオンブオバケを睨みながら言う。

???「……いい加減正体を現したらどうだ？」

オンブオバケ「……見破られていたか」

オンブオバケの姿が揺らぎ、どこか忍者を思わせる怪物が現れた。

???「我が名はキドウマル……目的は分かっているよな？」

???「大魔王の解放か……させないけどな！」

キドウマル「スーパ―変化が出来ないくせによく吠えるな……ニン

ジャレッド、サスケ！」

サスケ「確かにドロンチェンジャーは封印の鍵だ……けどな、だからって放っておく訳にはいかないんだよ！」

サスケは忍者刀を構えてキドウマルに斬り掛かっていく。

その動きは熟練されているが、所詮は生身……徐々にキドウマルに追い詰められてしまう。

サスケ「くそっ！」

キドウマル「あまり俺をなめるな……むっ!？」

その時ハリケンジャーがサスケの前に立つ。

ハリケンイエロー「大丈夫ですか？」

サスケ「君達は……？」

カブトライジャー「俺達は疾風流忍者のハリケンジャーと迅雷流忍者のゴウライジャーだ」

ハリケンブルー「私達も一緒に戦います！」

サスケ（疾風流と迅雷流……まさか!？）

キドウマル「ほう、面白い……」

しかしその時、

「どかーん！」

サスケ「なっ!？」

突如ハリケンジャー達の周りが爆発した。

ハリケンブルー「いまのは!」

ハリケンジャーやサスケが振り向くと、暗黒七本槍の四人がそこにいた。

ハリケンレッド「やつぱりお前達か！」

サタラクラ「なーはっはっは!」

ウエンディーヌ「あなた、私達と一緒にきてもらっわよ？」

キドウマル「何だと？俺に何の得がある……」

サンダー「我々は地球さえ腐らせればそれでいい……『あれ』と同じ大きさの負のエネルギー体である妖怪大魔王とやらが復活すれば『あれ』を無理に手に入れる必要も無くなる」

フラビージョ「むしろ得だらけだと思っけど？」

キドウマル「なるほど……ならば協力してやってもいい」

ハリケンレッド「待て！さっきから聞いてりゃ好き勝手言いやがって！俺達がそんなことさせる訳がないだろ！！」

キドウマル「鬱陶しい奴らだ……妖怪変化！」

キドウマルは又リカベに変身した。

又リカベ（キドウマル）「迷路で彷徨い続けるんだな」

又リカベの力でハリケンジャー五人を異次元迷路へと放り込んだ。

サスケ「ハリケンジャー！ゴウライジャー！」

サタラクラ「やるじゃんキドウマル！！」

キドウマル「たいしたことではない……行くぞ」

キドウマルとサンダー達はそのまま消えた。

サスケ「……くそっ！」

サスケが拳を地面に打ち付けた時

サイゾウ「サスケ！」

別の場所を搜索していたサイゾウとジセイカイが駆け付けた。

セイカイ「奴は？」

サスケ「逃げられた……しかも疾風流と迅雷流の忍者があいつが化した又リカベの迷路に送られちゃった」

サイゾウ「え？あそこに！？……って疾風流と迅雷流って全滅したんじゃないかった？」

セイカイ「それはおいといて……どうするよサスケ？」

サスケ「鶴姫達に連絡だ……こうなった以上、疾風流に頼みこむしかない」

その頃

ハリケンイエロー「何なんだよこ……？」

ハリケンジャー五人は迷路にたたずんでいた。

ハリケンレッド「とりあえずこの迷路から早く抜け出さないと……」
カブトライジャー「……そう簡単でもないみたいだぞ？」

迷路の通路からは青い怪人がわらわらと現れていた。

ハリケンブルー「うわぁ……」

クワガライジャー「……行くぞ！」

五人は青い怪人、ドロドロに向かっていく。

忍風戦隊ハリケンジャーVSカクレンジャー／妖怪現る！（後書き）

捕われてしまったハリケンジャー。

彼らを救うため、シュリケンジャーが動きだすが……

一方サスケ達も……

そしてジャカンジャと手を組んだキドウマルは………？

次回をお楽しみに！

忍風戦隊ハリケンジャーVSカクレンジャー／忍者のルーツ（前書き）

前回のあらすじ

街に謎の妖怪、キドウマルが現れる。

駆け付けたハリケンジャーとゴウライジャーが闘おうとした時、一人の男が妖怪と対峙する。

そんな中キドウマルの術によってハリケンジャーとゴウライジャーは迷路に閉じ込められてしまった……

忍風戦隊ハリケンジャーVSカクレンジャー／忍者のルーツ

駆け付けた鶴姫とジライヤにサスケは状況を説明した。

鶴姫「なるほどね……………」

サスケ「とにかく、早く彼らを助けないと……………」

鶴姫「…………でもその前に」

鶴姫はいきなりサスケの耳を引っ張る。

サスケ「イデデデッ！何すんだよ！？」

鶴姫「妖怪に逃げられた挙げ句、関係ない人達まで巻き込んで……………」

「……………関係は大有りさ！」

鶴姫の言葉の途中、緑のシノビスーツを着た忍びが五人の前に現れる。

ジライヤ「君ハ？」

シュリケンジャー「meはシュリケンジャー、ハリケンジャーやゴウライジャーの仲間さ」

鶴姫「でもどうして関係があるの？妖怪は私達の敵なのに……………」

シュリケンジャー「ジャカンジャと手を組んだ時点でme達の敵でもある。それに……………」

サイゾウ「…………それに？」

シュリケンジャー「…………いや、それは無限斎殿に説明してもらおう。とにかく疾風流の本部へ！」

六人はそのまま忍者走りで駆け抜ける。

ハリケンレッド「ドライガン！」

ハリケンブルー「ソニックメガホン！」

ハリケンイエロー「クエイクハンマー！」

ハリケンジャー三人がそれぞれの武器でドロドロを倒していく。
カブトライジャー「イカツチ丸！」
クワガライジャー「はぁ！」

その近くではゴウライジャー二人もドロドロを斬り付けていく。
しかし、ドロドロは迷路の奥から次々と出てくる。

クワガライジャー「くっ……キリがない！」

ハリケンレッド「迷路どこじゃないな……」

カブトライジャー「諦めるな！」

カブトライジャーは次から次へとドロドロを斬り付けていく。

ハリケンレッド「諦めなんかしねえって！」

ハリケンレッドもハヤテ丸を抜いてドロドロを斬り付ける。

無限斎「隠れ流の皆様、よくお越しいただきました」

サイゾウ「……」

シュリケンジャーの案内で無限斎とおぼろのもとへやって来たサスケ達だが、無限斎の姿を見て思わず黙りこんでしまう。

セイカイ「ハ、ハムスター？」

鶴姫「変化の術……ですか？」

無限斎「うむ……お恥ずかしいかぎりだが、呪文を忘れてしまい、この姿で失礼します」

サスケ「それより、なんで疾風流や迅雷流と妖怪が関係あるんだ？いくらジャカンジャと手を組んだとはいえ……」

無限斎「それは、隠れ流と我々疾風流や迅雷流はルーツが同じですからじゃ」

全「「え？」」

おぼろ「ちょ、ちよっとお父ちゃん！ウチかてそんなこと知らんかったで？」

鶴姫「本当です……隠れ流、疾風流、迅雷流は元々宇宙統一流から派生した忍び集団です」

シュリケンジャー「そして隠れ流は妖怪退治のために術をより高度な物へ進化させていった……だが」

無限斎「高度な隠れ流を快く思わない疾風迅雷流の輩達が隠れ流を襲い、術を盗もうとする事件が起こった……事件そのものは初代のカクレンジャー、ハリケンジャー、ゴウライジャーによって沈静化されたが、同じ過ちを犯さぬために隠れ流と二流派の関係を極秘なものにし、代々流派の長のみで継がれているのじゃ」

サスケ「だけど、それでもハリケンジャーと妖怪は関係ないんじゃない……」

無限斎「キドウマルが使う術、あれはジャカンジャの物に近いのだ」
鶴姫「まさか……！」

無限斎「奴の正体を調べたところ、キドウマルは宇宙忍者がたまたま地球に降り立った際に妖怪大魔王の力を浴びて妖怪となった、いわゆる妖怪忍者なのだ」

セイカイ「妖怪忍者……？」

ジライヤ「デモ何デ今頃……」

サイゾウ「大魔王の封印で全ての妖怪が封じられたはずなのに……」
シュリケンジャー「多分ジャカンジャの影響だね」

無限斎「うむ、おそらくジャカンジャの襲来で一時的に封印が弱くなった……その隙に完全な妖怪ではないキドウマルが抜け出せたのだろう」

鶴姫「じゃあ……」

サスケ「キドウマルは大魔王の封印を解きに行く………確実にな」
サイゾウ「でも、俺達じゃなきゃ封印は解けないんじゃない！」

鶴姫「封印術の基礎は宇宙統一流の物なの………だから」

おぼろ「何も知らん鷹介達でも封印が解けるゆうことか………そのために捕えたんやな」

サスケ「……封印の場所に行くぞ！」

シュリケンジャー「meも行こう!」
六人が走りだした。

キドウマル「……ここか」
キドウマルは大魔王の封印の前にいた。
キドウマル「さて、奴らを出すか……」
キドウマルが印を結ぶ。

迷路では今までひしめいていたドロドロが急に消え、突如目の前の壁が崩れて出口が作られた。

ハリケンブルー「え？」
ハリケンイエロー「何でいきなり……」
カブトライジャー「明らかに罠だな……」
クワガライジャー「だが、ここ以外に出口もなさそうだ」
ハリケンレッド「だったら……行こうぜ!!」
五人は壁の穴を通る。

サスケ「間に合え!」
サスケ達六人は大魔王を封印した場所へと急いでいた。
その時
マゲラツパ「マゲ〜!」
大量のマゲラツパが六人の前に立ちふさがった。

さらに暗黒七本槍の四人も現れる。

サタラクラ「こつから先には行かせないよ〜ん！」

サンダール「妖怪大魔王の復活…邪魔させはせん！」

鶴姫「くっ……」

サスケ「力ずくでもどいてもらっぜ！」

隠れ流は忍者刀、シュリケンジャーはシュリケンスバットを抜いて
ジャカンジャに立ち向かっていく。

が、マゲラツパの数が多さと暗黒七本槍の強さに苦戦になってくる。

セイカイ「くっそ……」

ジライヤ「コウナツタラ……」

サイゾウ「だな……サスケ、先に行け！」

鶴姫「ここは私達が……サスケは手遅れになる前に早く！」

サスケ「……わかった！」

ウエンディーヌ「逃がさないわよ！」

ウエンディーヌがサスケを追いかけようとするが、

シュリケンジャー「はっ！」

シュリケンジャーがウエンディーヌを止める。

シュリケンジャー「……頼んだからな」

サスケは封印の地に向かって一直線に走りだす。

迷路から脱出したハリケンジャー達五人。

だが、彼らの前にはキドウマルがいた。

ハリケンレッド「お前は……！」

キドウマル「……来たか」

カブトライジャー「やはり罠だったか……」

ハリケンイエロー「だけど本命が目の前にいるのは好都合だな」

ハリケンレッド「一気に決めてやるぜ!!」

キドウマル「ふっ」

クワガライジャー「何がおかしい!？」

キドウマル「なぜ俺がわざわざここまで出向いたか……それはこの場所に『あれ』にも劣らぬ強大な力があるからだ」

ハリケンブルー「『あれ』にも劣らない力!？」

キドウマル「力はこの奥に復活されている……貴様らの力で目覚めさせてもらうぞ、ハリケンジャーにゴウライジャー!！」

ハリケンレッド「俺達が解く……?」

カブトライジャー「そんなことをするわけがないだろう!」

キドウマル「お前らの意志は……関係ない!!」

キドウマルが印を結ぶと、ハリケンジャーとゴウライジャーを激しい頭痛が襲い、意識が朦朧としてきた。

キドウマルはハリケンジャーとゴウライジャーを操ろうとしているのだ。

キドウマル「大魔王を復活させる……」

ハリケンレッド「……はい」

ハリケンレッドはフラフラと扉に向かっていく。

キドウマル「くくく……」

しかし、

サスケ「はああああ!!」

キドウマル「なに!？」

サスケが忍者刀で斬り掛かってきたことで印が解け、ハリケンジャー達に意識が戻る。

サスケ「大丈夫か？」

ハリケンレッド「あんたは……」

サスケはハリケンレッドを助け起こした。

キドウマル「おのれ余計な真似を!」

キドウマルが波動を放ち、ハリケンレッドとサスケが爆炎に巻き込まれる。

ハリケンイエロー「鷹介えええ!!」

一方隠れ流とシュリケンジャーはなんとか負けずにすんでいるような状態だった。

サタラクラ「しぶといね、ちみ達！」

フラビージョ「でも、そろそろ終わらせちゃおっか！」

サンダー「受けてみる！！」

暗黒七本槍が強力なエネルギーを放ち、隠れ流が爆発に巻き込まれた。

シュリケンジャー「！！……カクレンジャー！」

忍風戦隊ハリケンジャーVSカクレンジャー／忍者のルーツ（後書き）

次回予告

間一髪ハリケンジャーによる妖怪大魔王の復活を阻止したものの、ハリケンレッドと共に爆発に巻き込まれたサスケの運命は……？
そしてついに忍者戦隊が……！！

忍風戦隊ハリケンジャーVSカクレンジャー／伝説の後継者と忍者戦隊（前書き）

前回のあらすじ

無限斎と鶴姫により、疾風流・迅雷流と隠れ流のルーツが語られた。またキドウマルの正体も妖怪となった宇宙忍者であることが判明する。

キドウマルはハリケンジャー達を使って大魔王の封印を解こうとし、それを阻止するためにカクレンジャーが走る！

しかし、暗黒七本槍の襲撃をうけて……………

忍風戦隊ハリケンジャーVSカクレンジャー／伝説の後継者と忍者戦隊

爆発に巻き込まれたはずのサスケや鶴姫達……
彼らは白い空間にいた。

鶴姫「ここは……？」

サスケ「俺達、死んだのか？」

「……いや、まだ死んではない」

「……今お前らの精神は時間を超越した特殊な空間にいる」

サイゾウ「この声は……」

五人が振り向くと、三神将が立っていた。

無敵將軍「大魔王の封印を解いてはならない……」

サスケ「だけどキドウマルは……！」

隠大將軍「分かっている、奴らを放っておくわけにもいかない……
ならば道は一つ」

ツバサマル「我々の力で一時的にドロンチェンジャーの代わりの封印を施す……その間にお前達は再びカクレンジャーとなれ」

無敵將軍「だが、長くは持たない……早急に決めるのだ！」

五人の手にドロンチェンジャーが現れる。

サスケ「よし……行くぜ……！」

「……スーパ―変化……！」

シュリケンジャー「……カクレンジャー……！」

シュリケンジャーが叫んだ瞬間

「……はあ……！」

エネルギーを切り裂き、白、水色、黄、黒の忍びが現れる。

サンダー「なんだと……！」

ウェンデュー「うつそ〜ん!!」

ニンジャホワイト「ここからがカクレンジャー本番よ!!」

4人はサンダー達に飛び掛かる。

ニンジャブルー「隠れ流・正方の陣!」

ニンジャイエロー「隠れ流・三段斬り!」

ニンジャブラック「隠れ流・流れ星!」

ニンジャホワイト「隠れ流・くの字斬り!」

四人の斬撃がサンダー達を斬り飛ばす。

サタラクラ「あらあ〜!」

ウェンデュー「いや〜ん!」

フラビージョ「ひ〜ん!」

サンダー「くっ、不意を突かれたとはいえ傷は深い……退かなくては」

サンダー達の姿がぼやけ、そのまま消えた。

シュリケンジャー「逃げたか……」

ニンジャイエロー「だけど今はキドウマルの方が重要だよ」

シュリケンジャー「ああ……行こう!」

サスケとハリケンレッドの周囲が爆発する。

キドウマル「ふん」

キドウマルは勝ち誇ったように鼻で笑うが

ハリケンレッド／ニンジャレッド「はっ!!」

爆炎から二人の赤い忍者が飛び出してキドウマルを斬り付けた。

キドウマル「ぐおう……」

ハリケンレッド／ニンジャレッド「はっ!!」

さらに同時蹴りでキドウマルを蹴り飛ばす。

キドウマル「ぐう……ん!？」

そこへカクレンジャーとシュリケンジャーも合流した。

ニンジャレッド「キドウマル！お前の野望、俺達が阻止してみせる！」

ハリケンレッド「覚悟しやがれ！」

そして名乗りが始まる。

ニンジャレッド「ニンジャレッド！！サスケ！」

ニンジャホワイト「ニンジャホワイト！！鶴姫！」

ニンジャブルー「ニンジャブルー！！サイゾウ！」

ニンジャイエロー「ニンジャイエロー！！セイカイ！」

ニンジャブラック「ニンジャブラック！！ジライヤ！」

ニンジャレッド「人に隠れて悪を斬る！」

カクレンジャー「「忍者戦隊！カクレンジャー見参！！」」

ハリケンレッド「風が哭き、空が怒る！空忍、ハリケンレッド！！」

ハリケンブルー「水が舞い、波が踊る！水忍、ハリケンブルー！！」

ハリケンイエロー「大地が震え、花が歌う！！陸忍、ハリケンイエ

ロー！！」

ハリケンレッド「人も知らず！」

ハリケンブルー「世も知らず！」

ハリケンイエロー「影となりて悪を討つ！」

ハリケンジャー「「忍風戦隊！ハリケンジャー！！」」

ハリケンレッド「あ、参上！」

カブトライジャー「深紅の稲妻！角忍、カブトライジャー！！」

クワガライジャー「蒼天の霹靂！牙忍、クワガライジャー！！」

カブトライジャー「影に向かいて影を斬り」

クワガライジャー「光に向かいて光を斬る」

ゴウライジャー「電光石火！ゴウライジャー見参！！」

シュリケンジャー「I am ニンジャオブニンジャ！緑の光弾、
天空忍者シュリケンジャー！参上！！」

その場にいる戦士が名乗りを終えた時、
???「ちよつと、待った！！」

そう叫び、さらにもう一人、メカのような紺色の忍者が現れる。

ニンジャマン「ニンジャマン！只今参上！！」

ニンジャホワイト「ニンジャマン！」

ニンジャマン「おいらも闘うぜ！」

ニンジャレッド「よし、やろうぜ！！」

キドウマル「おのれ……ならば、蘇れ！妖怪軍団！！」

キドウマルが印を結ぶとカツパ、ヌリカベ、アズキアライ、オボロ
グルマ、カマイタチがキドウマルの周囲に現れた。

ニンジャブルー「な、なんで！？」

シュリケンジャー「いや……多分エネルギー体が妖怪の姿をとつて
るだけだ」

ハリケンレッド「だったら一気に決めようぜ！」

十二人の忍びが一斉に駆け出した。

ニンジャブルー「はあ！」

カクレマルでヌリカベに斬り掛かる。

ヌリカベ「おらっ！」

しかしヌリカベはそれを受けとめる。
だが、

ハリケンイエロー「うらあ！」

地中からハリケンイエローが飛び出し、すれ違い様にヌリカベを斬り付ける。

ヌリカベ「うお！？」

ヌリカベはそのまま転げる。

ハリケンイエロー「ジャイロ手裏剣！」

ニンジャブルー「狼手裏剣！」

ヌリカベ「ぎゃああああ！！」

二人の追撃の手裏剣が突き刺さり、ヌリカベはそのまま爆発した。

カッパ「はあ！」

クワガライジャー「はあ！」

ニンジャブラック「ハッ！」

カッパとクワガライジャー、ニンジャブラックが攻防を繰り広げている。

クワガライジャー「はっ！」

クワガライジャーが一步引き、ニンジャブラックがシノビナックルを装備する。

ニンジャブラック「ハア！」

ニンジャブラックがシノビナックルでカッパを殴り飛ばす。

カッパ「うお！」

飛んだ先で待ち構えていたクワガライジャーがスタッグブレイカーでカッパを挟み込んで持ち上げる。

カッパ「あ……ぐ……」

ニンジャブラック「隠れ流・雷光落とし！」

クワガライジャー「はああああ！！」

カッパ「ぐはあああ!!」

さらに二人の電撃を浴びてカッパは爆発した。

ニンジャイエロー「おらっ!」

カブトライジャー「はあ!」

イカヅチ丸とカクレ丸でアズキアライに斬り掛かるが、
アズキアライ「うらあ!」

アズキアライの反撃にあい、火花を散らして倒れこむ。
が、それはスーツのみ。

アズキアライ「なに!?!」

その時地を轟かせ、巨大なカブトライジャーとニンジャイエローが
現れる。

アズキアライ「おう!?!」

カブトライジャー「超忍法幻カブト!」

ニンジャイエロー「隠れ流・巨大あやかしの術!」

そして二人の拳がアズキアライを潰す。

アズキアライ「おわあああ!!」

カマイタチ「はっ、はあっ!!」

カマイタチが真空攻撃を仕掛けるが、ハリケンブルーとニンジャホ
ワイトは巧みに避けていく。

ニンジャホワイト「隠れ流・折り鶴の舞!!」

ハリケンブルー「ハヤテ丸流水斬!」

カマイタチ「ぐわあ!」

二人の技を受けてカマイタチが怯む。

ニンジャホワイト「行くわよ!カクレイザー!!」

ハリケンブルー「ハヤテ丸!!」

二人はカマイタチの周囲を周りながら銃を放つ。

カマイタチ「ぬああああ!!」

カマイタチは火花を散らしながら倒れ、爆発した。

シュリケンジャー「はっ!」

シュリケンスバットでオボログルマを斬り付けていく。

ニンジャマン「はあ!」

さらにニンジャマンの拳もオボログルマを捕える。

オボログルマ「あう……」

ニンジャマン「行くぜい!せいりやあ!!」

ニンジャソードを振り抜き、オボログルマがダメージでその場に止まる。

シュリケンジャー「行くぜ!シュリケンジャー、ファイヤーモードでい!!」

フェイスチェンジし、シュリケンスバットを鞘に収めてバットにすると、必殺技を放つ。

シュリケンジャー「超忍法ミラクル千本ノック!!」

オボログルマ「びゃあああ!!」

シュリケンスバットで無数のボールが打たれ、オボログルマはそれを受けて爆発した。

忍風戦隊ハリケンジャーVSカクレンジャー／伝説の後継者と忍者戦隊（後書き）

次回予告

ついにキドウマルとの決着！

十二の忍びが力を合わせた必殺技が炸裂し、さらに流派を越えた「スペシャルやしな」の合体が！！

ハリケンジャーVSカクレンジャー、次回完結！

忍風戦隊ハリケンジャーVSカクレンジャー／今風の中で（前書き）

前回のあらすじ

大魔王復活を企むキドウマルに立ち向かうべくカクレンジャーが再び見参！

キドウマルが生み出した擬似妖怪軍団をハリケンジャーとカクレンジャーが力を合わせて倒し、残るはキドウマルただ一人！！

忍風戦隊ハリケンジャーVSカクレンジャー／今風の中で

ハリケンレッド「超忍法・空駆け！」

空中を駆けながらキドウマルに迫るハリケンレッド。

キドウマル「はっ！」

キドウマルはハリケンレッドのハヤテ丸を受けとめ、押し返そうとする。

と、そこへニンジャレッドが駆け込んでくる。

キドウマル「…甘いっ！」

キドウマルはハヤテ丸を片手で受けとめつつ、自らの刀でニンジャレッドの肩口を斬り付けた。

ハリケンレッド「！……ニンジャレッド！！」

だが、

ニンジャレッド「『…甘いっ！』ってのをそのまま返すぜ！」

ニンジャレッドは斬られたところから二体に分裂、さらに四体、八体へと分裂した。

ニンジャレッド「『…どうだ！忍法分け身の術！』『…』」

八人のニンジャレッドが一斉に言い、そのまま一斉にキドウマルに攻撃を仕掛ける。

キドウマル「くっ……おのれ！」

さすがのキドウマルも、ハリケンレッドを含めた九人もの忍びに囲まれて苦戦する。

そして

ハリケンレッド／ニンジャレッド「超忍法・分身影の舞！」「」

障子が閉まり、その向こうでハリケンレッドとニンジャレッドの影が次々とキドウマルに攻撃を仕掛ける。

ハリケンレッド「はあ！」

ニンジャレッド「だあ！」

ハリケンレッド「はっ！……たっ！！」

ニンジャレッド「…キキッ！」

ハリケンレッド／ニンジャレッド「はあああ！！！」

最後に二人揃ってキドウマルを蹴り飛ばす。

キドウマル「ぐう……」

キドウマルが立ち上がると、そこにカクレンジャーとハリケンジャーが勢揃いする。

ニンジャホワイト「とどめよ！」

ニンジャホワイトがカクレンジャーボールを取り出した。

ニンジャレッド「今日はお前達も入れ！それで『スーパーニンジャボール』だ！！」

ニンジャレッドがハリケンジャー達に言う。

ハリケンレッド「よし、行こうぜ！！」

「『レディ、ゴー！！』」「」

掛け声と共に全員が構える。

ニンジャホワイト「ジライヤ！！」

まずニンジャホワイトがニンジャブラックにボールを投げる。

ジライヤ「OK！クワガライジャー！！」

ボールは白から黒に、

クワガライジャー「兄者！！」

紺から臙脂に

カブトライジャー「ニンジャイエロー！！」

臙脂から黄色に

ニンジャイエロー「ハリケンイエロー！！」

色は変わらないがパワーは十分溜まり、

ハリケンイエロー「ニンジャブルー！！」

黄色から水色に

ニンジャブルー「ハリケンブルー！！」

水色のままにパスされ、

ハリケンブルー「ニンジャマン！！」

水色から青に

ニンジャマン「シュリケンジャー!!」

青から緑に

シュリケンジャー「いよっしゃ! ニンジャレッド!!」

シュリケンジャーがシュリケンスバットで打って緑から赤に変わったボールをニンジャレッドが受け取り、

ニンジャレッド「行け! ハリケンレッド!!」

ハリケンレッド「はあああああ!!」

ニンジャレッドが持つボールを一気に蹴りだす。

キドウマル「ぬ…… おおおお!!」

ボールが命中すると同時にキドウマルに火花が散りはじめる。

「「Say! バイバイ!!」」

十二人が決め台詞を言う。

だが

キドウマル「おのれ…… このままでは終わらん!!」

キドウマルは素早く印を結び、叫ぶように言い放つ。

キドウマル「邪忍法! 巨身転成の術!!」

キドウマルが巨大化する。

ハリケンレッド「おぼろさん! シノビマシンを!!」

おぼろ「シノビマシン、発進!!」

発進された五体のシノビマシンにハリケンジャー達が乗り込み、さらにシュリケンジャーも天空神に乗り込んでそれぞれ合体する。

ハリケンジャー「「忍風合体!!」」

ゴウライジャー「「迅雷合体!!」」

シュリケンジャー「飛翔変形!!」

そしてカラクリボールからトライコンドルを呼び出し、

ハリケン/ゴウライ/シュリケン「「銀河超越! 三神合体!!」」

「
旋風神、轟雷神、天空神が合体する。

ハリケン／ゴウライ／シュリケン」「天雷旋風神！推参！！」
と、そこへスーパー隠大將軍が現れた。

ニンジャマン「し、師匠！？」

ニンジャレッド「封印の扉は！？」

スーパー隠大將軍「無敵將軍が全力で封印を保っている……が、いつまでも持つわけではない！行くぞ！！」

ニンジャホワイト「わかりました……行くわよ！」

カクレンジャーもスーパー隠大將軍に乗り込む。

ニンジャマン「いよっし！」

ニンジャマンも巨大化する。

キドウマル「何が来ようと無駄だ」

キドウマルは向かってきたニンジャマンを殴り、天雷旋風神にエネルギー波を放つ。

ニンジャマン「うわあ！」

ハリケンレッド「ぐあー！」

二体が倒れこむ。

と、

カクレンジャー「鉄拳フライングフィニッシュ！！」

空中からスーパー隠大將軍が迫るが

キドウマル「はああああ！！」

カクレンジャー「うわああああ！！」

キドウマルが放つ雷撃に墜落する。

ハリケンイエロー「っ……強い！！」

カブトライジャー「先程からさらに能力が上がっているようだ……」

ハリケンレッド「ちくしょう！……どうすりゃいいんだよ！？」

大ピンチに陥る口ボ達。

スーパー隠大將軍「……よし！」

その時立ち上がったスーパー隠大將軍の背中からツバサマルが飛び

立った。

クワガライジャー「な……！？」

ニンジャブルー「一体何する気？」

ツバサマル「我々は流派は違えど同じ『忍』、今こそ全流派の力を
合わせるのだ！！」

そしてツバサマルは天雷旋風神の背中に合体した。

無限斎「む！……これぞ奇跡！！」

おぼろ「そんなに驚かへんでも……ウチは最初からこうなると思っ
とたで」

そこでカメラ目線になり

おぼろ「スペシャルやしな！」

ハリケン／ゴウライ／シュリケン「……スーパー天雷旋風神！推参

！！！！

キドウマル「それが……どうした！」

キドウマルが雷撃を放つが、スーパー天雷旋風神は空に飛び上がっ
て回避する。

ハリケンレッド「決めてやるぜ！」

ハリケン／ゴウライ／シュリケン「……超絶究極奥義！スーパーア
ルティマス torm！」

空中から発射されたスーパーアルティマス torm がキドウマルを捕
えた。

キドウマル「う……お………ぐはああああああ！！！」

キドウマルは大爆発した。

ニンジャレッド「やったぜ！」

地上に降りたスーパー天雷旋風神が勝利を物語っていた。

カクレンジャー達は封印の扉にドロンチェンジャーを当てる。
と、

大魔王「おのれカクレンジャー!!」

扉の向こうから地が震えるような声が響いた。

鷹介「!?!」

鶴姫「こいつが大魔王よ」

七海「えっ?じゃあ……」

サイゾウ「大丈夫、まだこっちには出てこれないから」

大魔王「いつか……いつか必ず抜け出し、貴様らに復讐して見せる
!」

サスケ「……やってみやがれ!俺達は逃げも隠れもしない、何度だ
って封印してやる!!」

そう言つてカクレンジャーは印を結ぶ。

そして、再び封印がなされたのであった。

サスケ「……色々世話かけたな」

鷹介「いや……それより、サスケさん達はこれからどうするんだ?」

セイカイ「残念ながら、全ての悪しき妖怪が退治された訳じゃない
から」

ジライヤ「僕達ハ妖怪退治ヲ続ケルヨ」

鶴姫「人に隠れながらね」

サスケ「今度はお前達がジャカンジャを倒し、世を平和に導いてく
れ」

鷹介「はい!」

そして戦士達は固い握手をかわす。

そして、カクレンジャーはネコマルに乗って旅立った。

七海「……私達も頑張らないとね」

吼太「先輩に笑われちゃうぜ」

鷹介「よし、これからも気を引き締めて行くぜ!!」

五人の忍者は固く心に誓ったのだった。

ジャカンジャを倒すと。

終わり

忍風戦隊ハリケンジャーVSカクレンジャー／今風の中で（後書き）

ハリケンジャーVSカクレンジャー 完結！！

次回予告

ある日、ギンジロー号が派手にぶっ壊れた。

ゴオンジャーの基地であることは伏せ、仕方なく修理に出すことに……

しかし、ケガレシアとキタネイダスがギンジロー号を狙って修理工場を襲う！

急いで駆け付けたゴオンジャー達だが、何と修理工場の人達がヒーローに変身した！？

そして、ガイアークの背後には大いなる野望を秘めたあの『皇帝』が……

炎神戦隊ゴオンジャーVSカーレンジャー

こうご期待！

炎神戦隊ゴーオンジャーVS カーレンジャー/皇帝ノフツカツ(前書き)

第二弾!!

今回は炎神×激走の車タッグ!

え?ターボレンジャー?

ジェットマンまでしか知らない俺には無理です!

では、始まります!

炎神戦隊ゴーオンジャーVS カーレンジャー/皇帝ノフツカツ

朝日が昇り、1日が始まる。

連が朝食のオムレツを作り、外のテーブルで早輝が髪をセットする横で走輔がコイントスをし、寝坊してパジャマで出てきた範人を軍平が叱る。

だがそんないつもの光景に事件が起き、そしてそれがもつと大きな事件の幕開けとなるなんて、この時はまだ誰も知らなかった……

朝食が終わり、ギンジロー号を発車させようとする走輔。

しかし

走輔「ん？………ちよっ………嘘おおお！？」

走輔が叫び声に全員が運転席に来る。

早輝「どうしたの、走輔？」

走輔「………ギンジロー号がぶっ壊れた」

「………は？」

ひとまず連が状態を見るが、

連「……ダメだ、メンテナンスのレベルじゃ無いっす」さすがの連とボンパーもお手上げだった。

ボンパー「本格的な修理が必要みたい………内部のデータは僕の中にあるから大丈夫だけど……」

軍平「問題は俺達の生活の場が一時的にでも無くなることか」

連「これだけ派手だと最低3日はかかりそうっすからね……」

走輔「俺達がいっぺんに泊まれる場所………あ！」

大翔「……で、俺達のとこに来たのか？」

走輔「ああ！」

五人は須塔家にいた。

美羽「……確かにうちは広いけど、いきなりすぎるとか考えないわけ？」

範人「ええ……もうギンジロー号修理に出しちゃったよ」

大翔「……まあ、このまま放っておく訳にもいかないしな……ギンジロー号が直るまでいい」

連「助かるっす！」

かくして走輔達は住む場所を確保し、ギンジロー号は修理に出された。

これが運命を握るカギとなるとも知らずに。

一方、こちらはヘルガイユ宮殿。

キタネイダスとケガレシアは頭を悩ませていた。

ケガレシア「おじゃ……どうすればゴーオンジャーに勝てるのでおじやろうか」

キタネイダス「多分今までのやり方では……何か強大な力でもあれば、少しはマシになるぞよか？」

???「ならば我が力を貸そう……」

キタネイダス/ケガレシア「……ん？」

二人が振り向くと、宙にエネルギーの塊が浮かんでいた。

キタネイダス「な、なんぞよお前は!？」

???「我は暴走皇帝エグゾス……もつとも、今はこの通り実体の無い怨念だけの存在ではあるがな」

ケガレシア「暴走皇帝……エグゾス？」

キタネイダス「その暴走皇帝が何の用ぞよ？」

エグゾス「さつきも言ったが、貴様らに力を貸してやろうと思っ
てな……我はチーキュのヒーローに野望を邪魔された……奴らを叩き
潰すため、貴様らと協定を結びたい」

ケガレシア「ヒーロー……ゴーンジャーのことでおじやるのか？」

キタネイダス「おそらく……どうするぞよ？」

ケガレシア「特に策があるわけでもないでおじやるしね……」

キタネイダスとケガレシアは顔を合わせて相談し、決心したように
うなずいた。

キタネイダス／ケガレシア「「お願いするぞよ（でおじやる）」

エグゾス「よし、まず手始めに……」

エグゾスは不適に笑う。

その頃

走輔「……何で俺が買い出しなんだよ？」

美羽「文句言わないの、働ざるもの食うべからずよ」

走輔と美羽が買い出しをしていると、二人の前を弁当屋の車が通る。
注文の弁当でも届けるのだと思う。

????「ふふ」

走輔／美羽「「!?!」」

ただし、運転席に怪人が座っていないければ。

美羽「ボンパー、ガイアークよ！」

美羽がボンパーに連絡を取る。

が、

ボンパー「ええ!?ガイアーク反応は関知してないよ?」

ボンパーは反応を関知していないらしい。

美羽「……どうなってるの？」
と、ゴーフォンからスピードルが慌てたように
スピードル『やばいぞ走輔！この方向は……！』
走輔「！……ギンジロー号の修理を頼んだ自動車会社の方向！？」
美羽「まさか……ギンジロー号が狙い！？」
走輔「とにかく行くぞ！」
二人が走り出す。

一方怪人は弁当を抱え、走輔の読み通りに自動車会社に入っていく。
怪人にとってここは得意先。
そう、ここは自動車会社ペガサス、かつて宇宙暴走族からチーキュ
……いや、地球を守ったカーレンジャーの基地兼職場である。
そしてこの怪人は元宇宙暴走族ボーゾクの総長で、改心後は地球
に自分の店を出して頑張っているガイナモだった。

ガイナモ「キッチンがいなもです！お弁当お届けにあがりました
」
実「お、来た来た！」
菜摘「いつもごめんね、ガイナモ」
ガイナモ「いやいや、こつちこそいつも贖罪にしてもらって感謝し
てるって」
平和な会話をするカーレンジャーとガイナモ。

しかし、そんなことは知らない走輔と美羽はガイナモがペガサスに
入るのを見て、自分達の仮説が正しかったと思い込む。
走輔「ビンゴか……どうする？」

美羽「とりあえず皆が来るまで持たせるしか……」

その時だった。

キタネイダス「なっ！？ゴーオンジャーが何故ここに！」

二人の目の前にキタネイダスとケガレシアが現れた。

美羽「ケガレシア！キタネイダスも！」

走輔「それはこっちのセリフだ！！蛮機獣を送ってきた挙げ句、お前らまで来たのか……行くぜ美羽！」

美羽「うん！」

走輔／美羽「チェンジソウルセット！レッツ！ゴーオン！！」

二人はゴーオンレッドとゴーオンシルバーに変身する。

キタネイダス「こちらも行くぞよ！」

ケガレシア「害水気スペシャル目の蛮機獣……」

キタネイダス／ケガレシア「ゴキブリバンキ！！」

呼ばれて現れたのは、ドでかいゴキブリの蛮機獣だった。

ゴーオンレッド「ゴ、ゴキブリイ！」

ゴーオンレッドはぞつとして引き、ゴーオンシルバーは完全に硬直している。

ゴキブリバンキ「行くぜ！ゴキゴキゴキゴキ……！！」

ゴキブリバンキが二人に襲い掛かる。

恭介「ん？なんか外騒がしくないか？」

その時、ペガサスの扉をぶち破ってゴーオンレッドとゴーオンシルバーが吹っ飛ばされてきた。

実「おわっ！？何やねんお前ら！」

さらに続けてゴキブリバンキが入ってくる。

ゴキブリバンキ「ゴキゴキ……」

ゴーオンレッド「くっ……おい！あんたら早く逃げろ……」

ゴーオンレッドとゴーオンシルバーは恭介達を庇うように立つ。

だが、

恭介「逃げない！」

ゴーオンレッド「はい!？」

直樹「お二人だけに任せる訳にはいきませんでございます」

洋子「ゴキブリは気持ち悪いけどね……」

菜摘「ちやつちやと倒しちゃお」

恭介「みんな、行くぞ!！」

「「「激走!アクセルチェンジャー!」「」」

恭介達五人は車をモチーフにしたマスクの戦士、カーレンジャーに変身した。

ゴーオンレッド「ええええ!？」

思わず叫んでしまうゴーオンレッド。

ゴキブリバンキ「ゴ、ゴキ?」

ゴキブリバンキも狼狽える。

その隙についてカーレンジャーが攻撃を仕掛ける。

イエローレーサー／ピンクレーサー「オートブラスター!」

ブルーレーサー／グリーンレーサー「バイブレード!」

ゴキブリバンキ「ぬお!？ぐはっ!」

オートブラスターの銃撃とバイブレードの突きでゴキブリバンキが怯む。

レッドレーサー「行くぞ!！」

ブルーレーサー／グリーンレーサー／イエローレーサー／ピンクレーサー「「「オッケー!」「」」

レッドレーサーは四人が組んだ手をバネにジャンプし、ゴキブリバンキを殴り飛ばした。

ゴキブリバンキ「ゴキ!い、一旦撤収ゴキ!」

ゴキブリバンキは消え、キタネイダスとケガレシアもいつの間にかいなくなっていた。

レッドレーサー「とりあえず追っ払えたか」

すると奥にすっこんでたガイナモが賞賛する。

ガイナモ「さつすがー！相変わらずやるなあー！」

ガイナモの登場にゴーオンレッドとゴーオンシルバーは一瞬警戒するが、カーレンジャーとの雰囲気では無いと考える。

ゴーオンシルバー「……あなた達は一体？」

レッドレーザー「俺達は戦う交通安」 「みんなあー！大変ダップ！
！」 「……」

レッドレーザーのセリフに割り込むようにしてペガサスに入ってきたのはE。にそっくりな奴。

イエローレーザー「ダップ！？」

グリーンレーザー「何やねん、来るなら連絡くらい……」

ダップ「そんな悠長な場合じゃないダップ！エグゾスが復活するかも知れないんだッ！」

ガイナモ「なにい！？」

レッドレーザー「どういうことだよ！？」

ダップ「エグゾスのエネルギーを地球でキャッチしたんだッ……」
と、話について行けないゴーオンジャー二人がカーレンジャーに尋ねる。

ゴーオンレッド「なあ、エグゾスってなんなんだ？」

ブルーレーザー「エグゾスはかつて僕達が倒した暴走皇帝のことでございます」

ゴーオンシルバー「暴走皇帝？」

レッドレーザー「エグゾスは地球を爆発させ、恐怖の大宇宙ハイウェイを設立しようとしたんだ」

ゴーオンレッド「地球を爆発！？」

ガイナモ「俺達ボーゾクも利用するだけ利用したんだぜ！」
と、その時ゴーオンレッドのゴーフォンが鳴る。

そして

ゴーオンブルー『走輔……私達捕まっちゃったっすー！』

ゴーオンレッド「何だと！？」

レッドレーザー「仲間か？」

ゴーンシルバー「ええ」

ゴーンレッド「待ってる！今行くからな！！」

7人は走りだした。

炎神戦隊ゴーオンジャーVS カーレンジャー／皇帝ノフツカツ（後書き）

次回予告

エグゾスはカーレンジャーとゴーオンジャーを呼び寄せるためにゴキブリバンキを使って町を攻める。

しかし、現れたのは意外な奴らだった……？

そしてゴーオンジャーは捕まった……のに間違いはないんだけど？

次回をお楽しみに！！

炎神戦隊ゴーオンジャーVS カーレンジャー/信号野郎フタタビ（前書き）

前回のあらすじ

ギンジロー号が故障し、ゴーオンジャーは須塔家で生活することに。一方ヘルガイユ宮殿には『暴走皇帝』と名乗る存在が現れていた。そして、スペシャル目ゴキブリバンキがギンジロー号の修理を以来した修理会社にあられた。

苦戦する走輔と美羽の前で職員が変身！？

ゴキブリバンキを追っ払ったのもつかの間、連達は誰かに捕まってしまうたらしい………

炎神戦隊ゴーオンジャーVS カーレンジャー/信号野郎フタタビ

走輔達が現場に駆け付けてみると……………

走輔「な、なんだぁ…？」

連達はゴーオンスーツのマスクを外した状態で、胸に信号機を着けた奴と喧嘩していた。

シグナルマン「……………だから、お前達は本官の許可なく巨大な車やヘリコプターで街を暴走していただろう!？」

範人「だから暴走じゃなくて……………」

連「蛮ドーマを退治していただけっす」

大翔「……………第一、何故お前の許可がいる?見た限りではこのワールドの住人じゃないだろう?」

シグナルマン「本官はチーキュに再び危機が迫っていることを知り、チーキュに駆け付けたのだぞ!？」

軍平「そもそもチーキュじゃなくて地球だ!！」

道行く人々はクスクスと笑いながら通りすがり、関係者としてはめちゃくちゃ恥ずかしい言い合いである。

恭介「シグナルマン!？」

シグナルマン「おお!レッドレーサーこと猿顔の一般市民!！」

恭介「Σいやその覚え方かよ!？」

シグナルマン「冗談だ、恭介」

恭介「……………そして呼び捨てかよ」

実「で?何でシグナルマンが地球におって、こんなところで喧嘩してるんや?」

実がさりげなく恭介をスルーしてシグナルマンに聞く。

シグナルマン「このカーレンジャーもどき達が街中で巨大な車やヘリコプターを乗り回していたのだ」

軍平「だから車じゃない!俺達の相棒の炎神だ!！」

美羽「…とりあえず最初から話してくれる?で、軍平は落ち着く!」

軍平「はい……」

そして連とシグナルマンの話を統合した結果、ガイアーク反応を辿って蛮ドーマと遭遇、退治しているところをシグナルマンが捕まえたらしい。

洋子「……あんたじゃん、悪いの」

シグナルマン「いや、申し訳ない、まさかチーキュを救ってるヒーローとは知らず……」

そんな時だった。

突然ゴーオンジャーにはボンパーから、カーレンジャーにはダップから連絡が入った。

ボンパー「ボンボン！ガイアーク反応だよー！！」

ダップ「非常に沢山の反応ダップ！」

通信を聞いた走輔達は一目散に走りだした。

その少し前。

ヘルガイユ宮殿へと戻ったキタネイダスとケガレシアはため息をついていた。

キタネイダス「なんぞよ、あいつらは？」

ケガレシア「カーレンジャーとか言ってたでおじゃるが……作戦は失敗でおじゃったか」

しかし、エネルギー体であるエグゾスは二人にこう言った。

エグゾス「案ずるな……全ては計画通りだ」

キタネイダス「計画通り……どうということぞよ？」

エグゾス「これを見るがいい……」

スクリーンには街を襲う無数のゴキブリバンキの姿があった。

キタネイダス「ゴキブリバンキがいっぱいでおじゃる！」

キタネイダス「そういえば、先程からゴキブリバンキが見当たらないぞよ!!」

エグゾス「うむ、蛮ドーマでゴーオンジャーとやらを、そしてお前達自らがカーレンジャーの足止めをしておき、量産型のゴキブリバンキで街を襲わせるという作戦だ」

キタネイダス「すごい……これは完璧な作戦ぞよ!!」

エグゾス（そして我が野望も……）

街中で暴れているゴキブリバンキの集団。

人々が混乱に陥るなか、勇敢に立ち向かう一つの影。

ガイナモ「止ああめろおお！この町は元ボーゾック総長のこのガイナモが守ってやるうう!!」

カーレンジャーが出ていった後、自分の店に戻る途中でゴキブリバンキの群れに遭遇したガイナモはいてもたってもいられずに、ゴキブリバンキを止めんと奮闘しているのだ。

ガイナモ「えい！やあ！」

必死に戦うものの、数にだんだん押されてくる。

ガイナモ「ちつくしょう……」

そして一匹のゴキブリバンキがガイナモに襲い掛かってくる。ガイナモ「!!」

気付いたガイナモだが、防御は間に合わない。

その時

???「おらっ！」

何者かがゴキブリバンキを殴り飛ばす。

そこにいたのは……

ガイナモ「ゼルモダ!!」

ゼルモダ「よう、ガイナモ!」

さらに

グラッチ「いやああ!」

グラッチが数体のゴキブリバンキを押しつぶしていた。

ガイナモ「グラッチ!」

ゼルモダ「つれねえぜ、ガイナモ! ケンカなら俺達も混ぜろ!!」

グラッチ「俺達は元ボーゾックのトップ3だろ?」

ゼルモダ「今じゃ俺達だってチーキュの一般市民だ! チーキュを守るぜ!!」

ガイナモ「ゼルモダ、グラッチ……よし、行くぜえええ!!」

走輔達が駆け付けてみると、

ゼルモダ「このやる! うじゃうじゃと……!!」

グラッチ「うわわわ!!」

ガイナモ「グラッチイイイ!! この! どけ!!」

異形三人組がゴキブリバンキの群れと戦っていた。

恭介「ガイナモ! ゼルモダにグラッチも!!」

走輔「知り合いか!？」

恭介「ああ……三人とも、今助けるからな!」

「「「ゴーオン!!」」」

「「「アクセルチェンジャー!!」」」

ゴーオンジャーとカーレンジャーに変身し、ゴキブリバンキの群れに向かっていく。

ゴーオンレッド「マンタンガン!!」

ゴーオンレッドがゴキブリバンキの一体を倒した……かに思えたが

ゴキブリバンキ「……ゴキー！」

ゴーオンレッド「なに！？」

なんとゴキブリバンキはむっくりと起き上がったのだ。

レッドレーサー「フエンダーソードー！」

レッドレーサーも2、3体を斬りつけるがゴキブリバンキは平然と襲ってくる。

レッドレーサー「な、何だよこれ……」

ガイナモ「気を付けろ！そいつら、倒しても倒しても起き上がってきやがるんだー！」

グラッチ「強さはどうってことないけど……」

ゼルモダ「キリが無えんだよー！」

ケガレシア「何でゴキブリバンキは壊れないでおじゃる？」

エグゾス「あの量産型ゴキブリバンキはボスである最初のゴキブリバンキ、ボスゴキブリバンキを倒さない限り永久に復活し続けるのだー！」

キタネイダス「ますます凄いでよー！」

ケガレシア（……あまりにも気前がいい上に、完璧すぎる作戦でおじゃる…本当に我らと汚い世界を作ってくれるのでおじゃるうか？）

ゴーオンレッド「うわあー！」

ゴキブリバンキに吹き飛ばされ、ゴーオンジャーは変身が解けてしまう。

走輔「もう一回ー！」

7人は再び変身しようとする。

しかし

ゴキブリバンキ「ゴキ！」

ゴキブリバンキ「ゴキキキ！」

ゴキブリバンキが吐き出すヘドロがチェンジソウルに張り付いて変身が不可能になってしまう。

軍平「何だこれは！？」

早輝「いや……気持ち悪い」

大翔「そんなことを言っている場合じゃない……来るぞ！」

ゴキブリバンキは7人に向かって来ていた。

走輔「くそっ！」

7人は生身で立ち向かう。

しかし、元々獣拳をかじっていたり本格的な訓練を受けていた須塔兄弟ですら苦戦してしまう。

さらにカーレンジャーの体力も限界に近かった。

レッドレーサー「仕方ない、一旦退くぞ！」

炎神戦隊ゴーオンジャーVS カーレンジャー/信号野郎フタタビ（後書き）

次回予告

変身出来なくなってしまったゴーオンジャー。

ゴキブリバンキが街を襲い続けているが、自分達には何も出来ない
と落ち込む。

そんな彼らを見たカーレンジャーはゴーオンジャーに聞く。

「君達は何のためにゴーオンジャーになった？」

果たして、ゴーオンジャーは再び立ち上がることはできるのだろうか？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7490v/>

夢のスーパー戦隊VSシリーズ

2011年11月15日13時40分発行